

国語科学習指導案

学 級 1 年 I 組
場 所 国語 5 教室
授業者 伊藤 渉

1 単元名

ベイトウンをつくろう

ー能動的な聞き手となり、他者の考えを受けとめる話し合い活動ー

2 単元の目標

○話し合いに積極的に参加し、他者の考えを受け止めようとする。

(国語への関心・意欲・態度)

○話し合いの内容についてしっかりと聞き取り、必要に応じて質問しながら、自分の考えと他者の考えを整理することができる。(話す・聞く能力ーエ)

○指示する語句や接続する語句に注意し、言葉のつながりを意識しながら適切に聞くができる。(言語についての知識・理解・技能 (イ(エ)))

3 評価規準

国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	言語についての知識・理解・技能
・それぞれの話し合いに積極的に参加し、他者の考えにしっかりと耳を傾け、理解しようとしている。	・各グループの話し合いの内容について、メモを工夫して取りながら聞き取り、必要に応じて質問をしながら、自分の考えと他者の考えの共通点や相違点を整理している。 (エ)	・指示する語句や接続する語句に注意し、話し手が言おうとしていることを理解しながら聞いている。(イ(エ))

4 単元について

(1) 本単元を貫く言語活動と扱う教材について

本単元では、小グループによる話し合い、及び意見の交流をするという言語活動を行う。話し合いのテーマには「ベイトウンに必要なものは？」を選んだ。打瀬中学校の学区であるベイトウンは、1995年に最初のマンションへの入居が始まった新しい町である。続々とマンションが建築され、町は急成長しているが、まだ空いている土地がある状況である。その空き地に自分だったら何を作るかということ話し合いのテーマとする。生徒の住む町を題材として取り上げることで、生徒の関心・意欲を引き出し、積極的な話し合いへの参加が期待できる。また、グループの中でホストを中心に、それぞれがどんどん発言していく形式をとり、気軽に参加できる雰囲気作りも行う。他人の考えを否定しないというルールも設定し、より発言しやすい環境を整備する。さらに、グループ内で考えを一つにまとめたり、絞ったりすることは行わない。何かを決めなければならないという堅い雰囲気ではなく、全員がベイトウンの町づくりに考えを出し合うことに意義を求めることで、生徒一人一人の積極的な参加を促したい。

話し合いの形態として、以下の手順を踏む。

- ① 5～6人のグループとなって机を囲み、テーマについて話し合う。
- ② 各グループに1名のみホストが残り、他のメンバーは旅人となってそれぞれが他のグループに移動する。机に残ったホストが他のグループの旅人に話し合いの内容を紹介し、旅人がその内容を聞き取る。また、旅人は自分のグループで出た考えをもとに、質問しながら聞くことで、相違点や共通点を探求する。
- ③ 旅人は元のグループに戻り、自分の聞いてきた内容を紹介し合い、話し合いを継続する。
- ④ 話し合いを受けて自分の考えをまとめる。

この形態をとることにより、自分のグループの考えと他のグループの考えを整理し、学習者全員が話し合いに積極的に参加することが求められる。さらに、それぞれの旅人が聞いた他のグループの考えを自分のグループに伝えなければならないという状況を作ることにより、より能動的な姿勢で聞き取りを行うと考える。また、グループの考えを紹介するという形態は、普段自分の考えに自信が持てず、話し合いに積極的になれない生徒の抵抗を減らすことができると考える。自分の考えには自信がないがグループの考えなら、という生徒は少なくないだろう。

【話し合いの形態の流れ】

(1) 各グループで話し合う。



(2) ホストが残り、旅人が違うグループに移動する。



(3) 元のグループに戻る。



(2) 本単元で身につけさせたい力

本単元では、第一学年「話すこと・聞くこと」の言語活動例「イ 日常生活の中の話題について対話や討論などを行うこと。」を通して、指導事項「エ 必要に応じて質問しながら聞き取り、自分の考えとの共通点や相違点を整理すること。」を指導する。一人一人の学習者が能動的な聞き手となり、他者の考えを受け止められるような話し合いの形態・題材（テーマ）をとり、話し合いに必要な技能を身につけられるような学習活動を展開していきたい。

(3) (1)(2)の基盤となる言語環境や継続的な取組

国語科では、自分の考えをすすんで述べ、他者の考えを受け止めることで、伝え合う喜びを味わわせたいと考え、「自分の考えをもち、表現する力を高める指導法の工夫」と

いう研究主題を設定した。自分の考えをもち、表現する力を高めるため、1学年ではこれまでに自分の考えを表現する学習活動を多く設定してきた。「野原はうたう」では、詩の朗読仕方について、気持ちや感じを表すためにどのような読み方をすればよいのかを話し合ったり、物語や小説の学習では、登場人物の思いについて話し合う活動などを行ってきた。また、話合いの際にはオープンワークスペースを活用し、机、椅子を効果的に配置し、グループ間の距離をとることで、より話合いに集中しやすい環境を作っている。

5 生徒の実態（男子16名 女子18名 計34名）

事前に国語に関するアンケートを実施した。「相手の意見を聞く」ことが得意だ、まあまあ得意だと答えた生徒は30名いた。一見すると聞くことについて積極的な生徒が多いように思えるが、理由を見ると「自分の意見をいうよりは。」や「黙っていると楽だから。」などが多く、消極的な聞き手が多いことがわかる。また、「テーマについて自分の意見を言う」ことが得意だ、まあまあ得意だと答えた生徒は17名だが、「相手の意見に対して自分の意見を言う」ことが得意だ、まあまあ得意だと答えた生徒は11名だった。理由を見ると、「否定的なことをあまり言いたくないから。」や「反対されたくないから。」などが多く、相手を否定したり、否定されたりすることに抵抗があることが伺える。それを象徴するように、話合い活動では、それぞれの意見は言うが、出てきた意見から話合いが膨らんでいくということが乏しい。そこで、今回は聞くということに焦点をあて、能動的な聞き手になり、自分の考えと他者の考えを整理することにより、話合いに必要な「聞く力」、「他人の意見を膨らませる力」を伸ばすことにつなげていきたい。

〔事前アンケート〕

	得意	まあまあ得意	やや苦手	苦手
Q1 相手の意見を聞く。	11名	18名	5名	0名
Q2 テーマについて自分の意見を言う。	6名	11名	11名	6名
Q3 相手の意見に対して自分の意見を言う。	2名	9名	14名	9名

6 単元指導計画（全3時間扱い）

時	学習内容と活動	指導や支援の手だて
1	<ul style="list-style-type: none"> ○これから行う話合い活動の流れを理解し、目的意識を持たせ、学習の見通しをもつ。 ○テーマについて、自分の考えをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○流れを図式化し、生徒の動きがわかりやすいように提示する。 ○日常生活に結び付けるなど、理由を明確にすることを確認する。 ○ベイタウンの基礎情報を提示する。
2 本 時	<ul style="list-style-type: none"> ○テーマについてグループに分かれて話し合う。 ○他のグループで意見交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○今回の話合いのルールを徹底する。 ○話合いの内容をワークシートにメモさせる。 ○メモの取り方を工夫させる。 ○自分のグループの考えと比較し、必要に応じて質問するようにさせる。

	<ul style="list-style-type: none"> ○元のグループに戻り、気づきや発見を統合する。 ○話し合いを受けて、自分の考えをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○話し合いの内容をワークシートにメモさせる。 ○他人の考えを聞いて、変わったことや感じたことも含めて書かせる。
3	<ul style="list-style-type: none"> ○各個人の最終的なアイデアを発表し、全体で共有する。 ○学習を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の考えとの共通点と相違点を意識させる。 ○今回の話し合いの形式について説明する。

7 本時の目標と展開

(1) 本時の目標

- ・話し合いに積極的に参加し、他者の考えを能動的に聞こうとする。
(国語への関心・意欲・態度)
- ・自分の考えとの共通点や相違点を整理しながら聞き取ることができる。(話す・聞く能力)

(2) 本時の学習活動

小グループによる話し合いの内容を各机に分かれて交流し、自分たちのグループに持ち帰ることで多様な意見交流をする。

(3) 本時の展開

時配	主な学習内容と活動	指導や支援の手だて (◇は評価)
導入 5分	○前時の学習を振り返り、本時の学習の流れを理解する。	○本時の流れをあらかじめ黒板に提示しておく。
展開	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: fit-content; margin: 0 auto;">「ベイトウンに必要なものは？」</div>	
12分	<ul style="list-style-type: none"> ○【第1ラウンド】 6グループ(各5～6名)に分かれて、テーマについて話し合う。 ・前時に記入したワークシートをもとに、ホストを中心に各自がアイデアを出し合う。 ・ワークシートにメモしながら、話し合いをする。 ・ホストは記録用紙にメモをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○話し合いにおいて以下3点のことを助言する。 ①予算や場所の広さは考えなくてよい。 ②ベイトウンの現状をよく考える。 ③様々な人の立場から考える。 ○ルールの確認をする。 ①話している人の顔を見て聞く。 ②他人のアイデアを否定しない。 ③質問や感想は発言途中であってもして構わない。

10分	<p>○【第2ラウンド】</p> <p>各グループのホストを1名残して、残りのメンバーは旅人となり、それぞれが違う他のグループの場所に行き、そのグループの話合いの内容を聞き、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホストは記録用紙を参考にし、話合いの内容を紹介する。旅人からの質問があれば答える。 ・旅人は、内容をメモしながら聞きとり、必要に応じて質問をする。 	<p>○自分たちの考えとの共通点や相違点に注意をさせる。</p> <p>○同じようなアイデアには積極的な同意を促す。</p>
13分	<p>○【第3ラウンド】</p> <p>元のグループに戻り、それぞれの旅人が聞いてきたアイデアを紹介し、もう一度話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旅人から紹介されるアイデアについて、必要に応じて質問しながら聞く。 ・新しいアイデアはワークシートにメモしていく。 	<p>○聞いてきたアイデアは絞って発言するようにさせる。</p> <p>○自分たちの考えとの共通点や相違点を意識しながら紹介させる。</p> <p>◇話合いに積極的に参加し、他者の意見を聞き、理解しようとしている。</p> <p>◇自分たちの考えとの共通点や相違点に注意し、適切にメモを取っている。</p>
まとめ 10分	<p>○話合いを終えて、自分の考えを整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに自分の考えと考えがどうして変わったか、またはどうして変わらなかったかの理由を記入する。 <p>○自己評価を記入する。</p> <p>○次時の授業の確認をする。</p>	<p>○机を班の形から前に向けるように指示する。</p> <p>◇他者のアイデアを知ることで、変わったことや感じたことを具体的に記入している。</p>